



JP7213474

Biblio

Page 1

Drawing



## SPONGE TYPE GLOVE

Patent Number: JP7213474  
Publication date: 1995-08-15  
Inventor(s): UEKI AKIO  
Applicant(s): KIRIBAI KAGAKU KK  
Requested Patent: ☐ JP7213474  
Application Number: JP19940010360 19940201  
Priority Number(s):  
IPC Classification: A47L17/00  
EC Classification:  
Equivalents:

### Abstract

**PURPOSE:** To provide a sponge type glove capable of simply and surely washing the stains stuck to fine portions of dishes or the like.

**CONSTITUTION:** This sponge type glove is provided with sponge 3 on at least part of the palm portion 2a and fingers of a glove 1 made of natural rubber, or synthetic rubber, or synthetic resin.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-213474

(43) 公開日 平成7年(1995)8月15日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

A 4 7 L 17/00

識別記号

Z

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平6-10360

(22) 出願日 平成6年(1994)2月1日

(71) 出願人 593029949

桐灰化学株式会社

大阪市淀川区新高一丁目10番5号

(72) 発明者 植木 章夫

大阪市淀川区新高一丁目10番5号 桐灰化学株式会社内

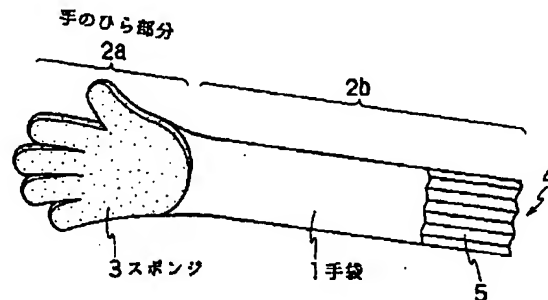
(74) 代理人 弁理士 朝日奈 宗太 (外3名)

(54) 【発明の名称】 スポンジ一体型手袋

(57) 【要約】

【目的】 食器などの細かい部分に付着した汚れを簡単かつ確実に洗うことができるスポンジ一体型手袋を提供する。

【構成】 天然ゴムもしくは合成ゴム、または合成樹脂からなる手袋1の手のひら部分2aおよび指先の少なくとも一部にスポンジ3を設けたことを特徴とするスポンジ一体型手袋。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 天然ゴムもしくは合成ゴム、または合成樹脂からなる手袋の手のひら部分および指先の少なくとも一部にスポンジを設けたことを特徴とするスポンジー体型手袋。

【請求項2】 硬化された繊維または不織布が、前記スポンジとともに、前記手袋の手のひら部分および指先の少なくとも一部にさらに設けられてなる請求項1記載のスポンジー体型手袋。

【請求項3】 天然ゴムもしくは合成ゴム、または合成樹脂からなる手袋の片方の面の少なくとも一部にスポンジが設けられており、他方の面の少なくとも一部に硬化された繊維または不織布が設けられてなることを特徴とするスポンジー体型手袋。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明はスポンジー体型手袋に関する。さらに詳しくは、食器の細かいところも簡単かつ確実に洗うことができ、従来のようにスポンジをつかむことなく簡便に使用できるスポンジー体型手袋に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来より食器や調理器具などを洗うばあい、スポンジなどを用いて汚れをこすり落とすことが行われている。スポンジは通常市販されているものが用いられ、一般に直方体などのブロック状を呈している。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、ブロック状のスポンジは、ある程度の大きさや固さがあって扱いにくい。ため、グリル用の網のあいだやフォークの串のあいだなどの細かい部分に付着した汚れは容易に洗うことができないという問題がある。

【0004】また、食器や調理器具などを洗うときには、洗剤による手荒れを防止するためにゴム手袋などをはめて洗うときがある。しかし、ゴム手袋などをはめた手でブロック状のスポンジをつかんで食器洗いをすれば、食器への感覚が鈍くなり、細かい部分を洗うのが一層困難になる。また食器を洗うまでに手袋をはめて、さらにスポンジをつかむ必要があり、面倒であるという問題もある。また、すべて落としやすく、ガラス食器などをこわすこともある。

【0005】本発明はかかる問題を解消するためになされたものであり、食器などの細かい部分に付着した汚れを簡単かつ確実に洗うことができるスポンジー体型手袋を提供することを目的とする。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】第1発明のスポンジー体型手袋は、天然ゴムもしくは合成ゴム、または合成樹脂からなる手袋の手のひら部分および指先の少なくとも一部にスポンジを設けたことを特徴とするものである。

【0007】第2発明のスポンジー体型手袋は、天然ゴムもしくは合成ゴム、または合成樹脂からなる手袋の片方の面の少なくとも一部にスポンジが設けられており、他方の面の少なくとも一部に硬化された繊維または不織布が設けられてなることを特徴とするものである。

## 【0008】

【作用】本発明によれば、スポンジが手袋の手のひら部分に設けられているため、指の部分のスポンジを用いれば、たとえばきゅうすの内側などの細かい部分に付着した汚れも指先で直接洗うようなデリケートさで確実に洗い落とすことができる。

【0009】また、手袋とスポンジが一体になっているため、ゴム手袋をはめるだけという簡単な準備ですぐに食器の洗浄を行うことができるとともに手を洗剤から保護することができる。

## 【0010】

【実施例】つぎに、図面を参照しながら、本発明のスポンジー体型手袋を詳細に説明する。図1は本発明のスポンジー体型手袋の一実施例を示す斜視図、図2は図1のスポンジー体型手袋の手の甲の部分からみた部分拡大図、図3は本発明のスポンジー体型手袋の他の実施例を示す斜視図、図4は図3のスポンジー体型手袋のIV-IV線断面図である。

【0011】図1に示されるように、本発明のスポンジー体型手袋は、手袋1の手のひら部分2aの少なくとも一部にスポンジ3が設けられている。

【0012】図1に示される手袋1は、手のひら部分2aおよび腕部2bからなり、人間の手および前腕部と実質的に同一の形状を呈する袋体である。腕部は肘回りまでの長さがあり、口部4には使用時に水が入らないようにするために、絞り5が形成されている。

【0013】手袋1は、本発明においてとくに限定されないが、天然ゴムもしくは合成ゴム、またはポリエチレン、ポリプロピレン、ナイロン、ビニロンなどの合成樹脂で作製することができる。このうち、安価で加工性がよいので合成樹脂で作製するのが好ましい。

【0014】スポンジ3は、手袋1の手のひら部分、具体的には手首の上部回りから指先までの内側部分の全体に固着されている。スポンジ3は、手袋1のそれぞれの指の一本一本の内側に、指の形に一致するように設けられているため、指に相当する部分をそれぞれ独立して曲げたり、伸ばしたりすることができる。このため、指先で直接洗っているような感覚で食器などを洗うことができ、細かい部分の洗浄が可能になる。

【0015】なお、本発明において、スポンジ3は、手のひら部分全体に形成されることに限定されるものではなく、指の部分のみなど部分的に形成されたものでもよい。また図3に示す例のように、指先（指の先端部）までスポンジを設けるようにしてもよい。そうすることによりコップなどの狭い小さいものの底まで容易に洗うこ

とができる。

【0016】スポンジ3は、本発明においてとくに限定されないが、ポリウレタン、ビニロン、合成ゴムなどの発泡体などで作製することができる。このうち、安価なのでポリウレタンで作製するのが好ましい。

【0017】スポンジ3は、指を曲げたときに指と一体になって曲がる程度の厚さ、固さで形成されるのが好ましく、たとえばポリウレタン、ビニロンなどの材料からなり、5～50mm程度の厚さに成形したスポンジが採用されるのが好ましいが、とくに限定されるものではない。

【0018】スポンジ3は、手袋1の手のひら部分2aに接着剤により、または熱融着などの方法によって固着される。

【0019】なお、前述した実施例では手袋にスポンジだけを設けているが、スポンジとともに、手のひら部分および指先の少なくとも一部に硬化された繊維または不織布を設けるようにしてもよい。すなわち、手のひら部分のうち、指の部分にスポンジを設け、その他の部分に硬化された繊維または不織布を設けてもよいし、あるいは人さし指、中指およびくすり指にスポンジを設け、その他の部分に硬化された繊維または不織布を設けてもよく、それぞれの配置は以上の例以外にも適宜選択することができる。硬化された繊維または不織布は、繊維または不織布に合成樹脂を含浸させるなどして行うことができ、こびりついた汚れなどを落とすのに有効である。

【0020】さらに、手袋の片面の少なくとも一部にスポンジを設け、他方の面の少なくとも一部に前述した硬化した繊維または不織布を設けるようにしてもよい。

【0021】図3～4は、本発明のスポンジー体型手袋の他の実施例を示している。

【0022】手袋6は、手の甲の部分の形状を呈するように形成された透明の合成樹脂からなるシート部7の周縁部分がスポンジ3の上面に固着されることにより、袋状に形成されている。この手袋6の内部に、通常市販されているゴムなどからなる手袋8の手に相当する部分（ばあいによっては腕部の一部）を挿入して合体させた状態で食器などの洗浄を行う。スポンジ3が汚れたり、破損したときには、手袋を外す要領で不要になったスポン

ンジ3を手袋8から取り外し、ついで手袋をはめるように新しいスポンジ3を装着すれば、容易にスポンジ3の交換をすることができる。このばあい、手袋部分の材料としてスポンジと同程度の寿命になるものを選定すれば、安価なものを供給することができる。

【0023】なお、手袋6は、シート部7が完全な袋体に形成され、スポンジ3の上面全体に貼着されてなるものでもよい。

【0024】なお、本発明のスポンジー体型手袋は、使用者の手の大きさに合うように、数種類の大きさ（たとえば、S、M、Lサイズなどの3種類）で製造されるのが好ましい。

【0025】さらに、手袋の内部に脱臭作用のある布などを貼り付けるか、または素材自体に脱臭剤が混入されたもので手袋をつくれれば、手に臭いが付く不具合を防止することができる。

【0026】本発明のスポンジー体型手袋は、前述した炊事用だけでなく、風呂、トイレまたは自動車の洗浄など種々の用途に用いることができる。

【0027】

【発明の効果】本発明によれば、食器などの細かい部分に付着した汚れを簡単かつ確実に洗うことができ、従来のように手でスポンジをつかむことなく簡便に使用できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のスポンジー体型手袋の一実施例を示す斜視図である。

【図2】図1のスポンジー体型手袋の手の甲の部分からみた部分拡大図である。

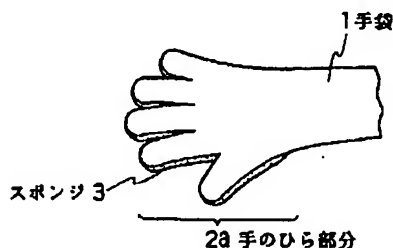
【図3】本発明のスポンジー体型手袋の他の実施例を示す斜視図である。

【図4】図3のスポンジー体型手袋のIV-IV線断面図である。

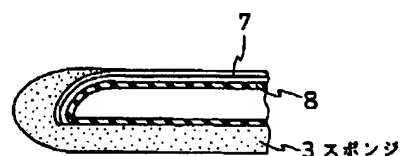
【符号の説明】

- 1 手袋
- 2a 手のひら部分
- 3 スポンジ
- 6 手袋

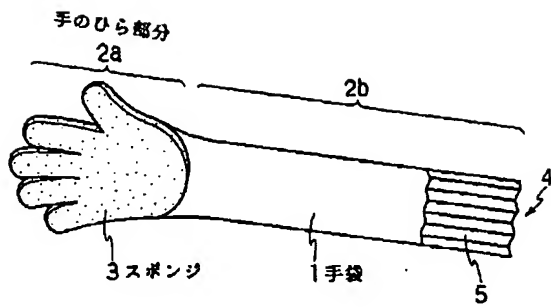
【図2】



【図4】



【図1】



【図3】

